

プロポリス

抗COVID-19作用を示唆

シクロケム

シクロケム(東京都中央区、03-6362-1511)は昨年8月に「コサナ・ニュージランド」社を立ち上げ、独自のプロポリス原料「NZCAPE30」の供給を開始した。

「NZCAPE30」は、NZ産プロポリスの特有成分である「ヒーフェネチルエステル(CAPE)」を30mg/10g以上で規格化したもの。原料は通常グレードのほか、γ-シクロテキスト



リン(γ-CD)包接によってCAPEの安定性と吸着性を飛躍的に高めた「NZ産プロポリス・γ-CD包接体」を取り扱う。

自社製品では、同じく優れた抗菌作用が確認されているニュージランド産マヌカハニーと組み合わせた「NZ産プロポリス入りマヌカハニーMG0400+キャンディ」「写真」を今年3月に発売。昨今は「免疫力が高まっていることから、早くも大きな反響を得ているという。

シクロケムはCAPEの機能性については、神経細胞の分化誘導を介した脳機能改善作用や抗がん作用、神経線維腫瘍の増殖抑制作用などが明らかとしてきたが、このほど国立研究開発法人産業技術総合研究所とインド工科大学デリー校(IITD)との共同研究でCAPEの新型コロナウイルス(COVID-19)抑制作用が示唆され、研究成果の論文がアクセプトされた。

COVID-19をはじめとしたウイルスはメインプロテアーゼの働きによって増殖する。一方、同研究ではCAPEがメインプロテアーゼ酵素の活性を阻害し、増殖を抑制する可能性を発見。「本研究は新型コロナウイルス感染症に対していくつかの治療または予防的価値を提供する可能性がある」と結論付けられている。

今後、産総研との共同研究でCOVID-19に対するCAPE-γ-CD包接体の有効性についてさらなる検討を行うっていく方針だ。